



第66回春季日本歯周病学会学術大会

会期: 2023年5月26日(金)・27日(土)

会場: レクザムホール(香川県県民ホール)、JRホテルクレメント高松

大会長: 徳島大学大学院医歯薬学研究部歯周歯内治療学分野 湯本 浩通 先生

ランチオンセミナーⅢ

The teeth saving with REGROTH[®]

～病院歯科編～

現地開催

日時

2023.5.27 [土] 11:40 ▶ 12:30

学会2日目

場所

A会場 レクザムホール(香川県県民ホール) 大ホール

座長

沼部 幸博 先生

日本歯科大学生命歯学部
歯周病学講座 教授

演者

永原 隆吉 先生

医療法人社団 日本鋼管福山病院
歯科 科長



- 本セミナーは整理券制です。
- 当日8:30より、レクザムホール大ホール棟2Fロビーの整理券配布デスクにて、整理券の配布を予定しております。
- セミナー開始後5分を過ぎてもご来場されない場合、お食事の引き換えができかねますので予めご了承ください。

共催: 第66回春季日本歯周病学会学術大会 / 科研製薬株式会社

The teeth saving with REGROTH[®] ~病院歯科編~

永原 隆吉 先生

医療法人社団 日本鋼管福山病院 歯科 科長



ご略歴



2004年 神奈川県立歯科大学 歯学部 卒業
 2004~2005年 神奈川県立歯科大学附属病院 総合診療科 歯科研修医
 2005~2009年 広島大学大学院 歯周病態学研究室 博士課程終了 歯学博士取得
 2010~2012年 Boston University, The Forsyth Institute (米国) 博士研究員
 2013年 広島大学大学院 歯周病態学研究室 特任助教
 2014年 医療法人 緑山会 下松中央病院 歯科 歯科部長
 2017年 医療法人社団 日本鋼管福山病院 歯科 科長 (現在に至る)

日本歯周病学会(専門医)、日本歯内療法学会(専門医、指導医、代議員)、日本歯科保存学会(認定医)、口腔ケア学会(3級)、日本環境感染学会(ICD)

第63回春季日本歯周病学会優秀臨床ポスター賞、第64回春季日本歯周病学会優秀臨床ポスター賞



骨移植材や遮蔽膜、生物製剤を用いた歯周組織再生療法による優れた臨床成績と中期(3~5年)から長期(5~20年)の高い歯の生存率を示したStavropoulosらの報告(J Clin Periodontol. 2021;48(3):410-430.)の他、Cortelliniらによる成果と費用対効果の評価(J Clin Periodontol. 2020;47(6):768-776.)は特記に値する。さらに、Cortelliniらによる研究報告で示されたように、Baseline時の88%もの患者が、「可能であればHopeless teethの保存を希望されていた」ことから、様々な全身疾患を背景に持つ患者の「想い」も同様である。そのような患者に対し歯周組織再生療法の適応を検討する(J Periodontol. 2022;93(12):1763-1770.)ことで、安易な抜歯ではなく、可能な限りの歯の保存が、真の患者利益にもつながる。それは、2016年に市販化されて7年目の遺伝子組換えヒト型塩基性線維芽細胞増殖因子を主成分とする歯周組織再生医薬品「リグロス[®]」歯科用液キット600 μ g/1200 μ gにおいても、重度歯周炎罹患歯を保存できるポテンシャルが秘められており、口腔内の健康を守ることが、全身の健康も守る大切な使命を果たすことになる。

日本鋼管福山病院は15科からなる医療機関で、口腔外科ではなく歯科を標榜していることから、医科や近隣歯科からの紹介は少なくない。糖尿病、降圧剤による薬物性歯肉増殖症、周術期等口腔機能管理などの患者が医科から紹介され、連携を図る中で、リグロス[®]は、おおいに歯の保存に寄与できるばかりか、医師や看護師などから、その存在や歯周組織再生療法の外来における日常臨床のルーティン化に未だ驚かれる。また、近隣歯科より紹介を受けて歯科診療に従事しているが、各種病因に基づく歯周膿瘍による急性歯周疾患と歯内・歯周病変(Herrera D, et al. J Periodontol. 2018;89 Suppl 1:S85-S102.)は、歯の予後を著しく損なうおそれがあるため、早期診断と治療による迅速な対応が重要となる。そのため、実臨床の中で少しでも予知性を高めるために使用されてきたリグロス[®]は、病院歯科として地域医療に貢献ができています。

そこで、本講演では、演者がこれまで実際に、当病院歯科の臨床で行ってきたリグロス[®]の優位性を皆様とともに供覧したい。

Drug Information

●詳細は電子化された添付文書をご参照ください。「禁忌を含む使用上の注意」の改訂に十分ご留意ください。

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 口腔内に悪性腫瘍のある患者又はその既往歴のある患者
[本剤が細胞増殖促進作用を有するため]

【効能・効果】 歯周炎による歯槽骨の欠損

〈効能・効果に関連する使用上の注意〉

1. 本剤は、歯周ポケットの深さが4mm以上、骨欠損の深さが3mm以上の垂直性骨欠損がある場合に使用すること。
2. 本剤は、インプラント治療に関する有効性及び安全性は確立していない。

【用法・用量】 歯肉剥離掻爬手術時に歯槽骨欠損部を満たす量を塗布する。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

本剤の使用にあたっては【臨床成績】の項を参照し適切な量を用いること。

【承認条件】 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

【使用上の注意】<抜粋>

1. 重要な基本的注意

- (1)本剤は歯周外科手術の経験のある歯科医師又は医師が使用すること。
- (2)術後に歯肉弁の著しい陥凹を生じると予想される骨欠損部位に対しては、他の適切な治療法を考慮すること。

2. 副作用

本剤が投与された安全性評価対象症例429例中3例(0.7%)に副作用が認められた。その内訳は、適用部位における歯肉白色化、歯肉紅斑、歯肉腫脹および頭痛が各1例(0.2%)であった。臨床検査値異常は429例中51例(11.9%)に認められ、その主なものは尿中アルブミン陽性27例(6.3%)、尿中 β_2 ミクログロブリン上昇17例(4.0%)、尿中NAG上昇16例(3.7%)、CRP上昇6例(1.4%)等であった。

分類	頻度	1%以上	1%未満	頻度不明
適用部位および適用部位近傍			歯肉白色化、歯肉紅斑、歯肉腫脹	硬結、肥厚
精神神経系			頭痛	
臨床検査		尿中アルブミン陽性、尿中 β_2 ミクログロブリン上昇、尿中NAG上昇、CRP上昇	AST(GOT)上昇、ビリルビン上昇、CK(CPK)上昇、ALT(GPT)上昇、LDH上昇、尿糖陽性、リンパ球増多、好中球減少、単球増多、白血球減少、総蛋白上昇	

●その他の使用上の注意等については電子化された添付文書をご参照ください。

2021年2月改訂(第5版)



歯周組織再生剤

リグロス[®] 歯科用液キット 600 μ g/1200 μ g
REGROTH[®] Dental Kit 600 μ g/1200 μ g トラフェルミン(遺伝子組換え)製剤

処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準準拠

製造販売元
 【文献請求先及び
 問い合わせ先】



科研製薬株式会社
 東京都文京区本駒込二丁目28番8号
 医薬品情報サービス室